教育八方やぶれ

生江義男著

有紀書房

教育八方やぶれ

生江義男著

・有紀書房刊

教育八方やぶれ

生江義男（なまえ・よしお）

1917年，石巻市で生まれる。石巻中学校から東京高師を経て，東京文理科大学史学科卒業。現在，桐朋学園常務理事・校長。桐朋学園大学教授。東京教育大学文学部講師。日本私学教育研究所運営委員長。編著書に『国史学論文要目』（刀江書院），『目で見る日本美術史』（東西文明社），『中学校社会科指導講座—地理篇・歴史篇・政経社篇—（雄山閣），『社会科における視聴覚教材活用の理論と実践』（葵書房）など。

教育八方やぶれ

昭和42年2月25日　初版印刷　　￥420.
昭和42年3月2日　初版発行

著　者　生江義男
装幀者　小西啓介
発行者　高橋巳寿衛
印刷者　高野喜美子

発行所　東京都文京区目白台2丁目3—21
振替口座・東京8594番
電話　943局　0411（代）
有紀書房

落丁・乱丁がありましたら，本社でお取り換えいたします。

情熱の書

扇谷　正造

本書は、三部からできている。

第一部は、いわば、著者が社会科とともに歩んで来た自伝的回想であり、第二部は、それらに基づいて、今日、著者が行なっている教育的実践である。第三部は、それらの結果として、著者の頭脳から分泌したエッセイであり、抱負であり、献策である。

本書を読まれる方は、たぶん、全篇にみなぎる著者の〝熱っぽさ〟に驚かれるであろう。これは、もはや、社会科の本というより、桐朋学園を〝場〟に、教育に対する情熱を賭けた、いや今も傾けつつある〝一人の男の歴史〟というのが、むしろ、正確かも知れない。

終戦直後の桐朋学園は、お粗末な木造建ての校舎だった。今や、それは幼稚園から四年制大学をふくむ四階建ての近代的校舎へと発展した。しかも、世間の評価は、設備をはるかに上ま

わっている。その秘密は何か？　一言にしていえば、氏を中心とする教師団の情熱、情熱、情熱……という言葉につきるであろう。

本書によって、戦後の新教育が何を狙い、いかに実践されているか、それらが各方面から理解され、さらに、自分たちの問題として取りあげ、考えられんことを強く祈ってやまない。それは、単に桐朋学園ばかりでなく、広く国民全体の問題だと考える。（朝日新聞論説委員）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

生江君のこと

柴沼　直

桐朋学園の女子校は、生江君を責任者として現場の運営をつかさどってもらっている。もっとも女子校というのは俗称であって、完全な女子校は一部分に過ぎない。幼稚園から大学まで各級の学校は中学・高校を除いて男女共学なのである。

したがって生江君のところには、大学から幼稚園までの裁決すべき事があとからあとから続いてくる。その多忙さを切り抜けながら、よくもこんな本が書けるものだと不思議なほどである。

その秘密は、しかし本人の性格にあるのかも知れない。

何よりも生江君は一刻もじっとしておられない、まことに気ぜわしい人間である。身体が休みなく働いているだけでなく、脳も急回転する。あまりに連想を次々としゃべるので、聞く方がつい岐路に誘い込まれてしまうことがあるほどである。もっとも当のご本人は、最初から結

論に直観的に到達しているので、誘い込まれた方が、みじめな思いをするだけである。

しかし、これは時として、生江君の開放的な性格を巧みに表現する結果ともなり、他人を欺かない人という印象を強く与えてしまう。典型的な口八丁手八丁の上に被信頼性がある、ということである。

ただし、その性格をのみこんでいる私のような横着者は、何もかも厄介な仕事を負いかぶせ、理事長の自分がやったより、よい結果を寝て待つということになる。

本人は内心不服らしいが一杯飲むと、私が横着なことなどすぐ忘れて、どうすれば日本の教育内容がよくなるかなど次元の高い議論に移っていくので、私にはほんとうにありがたい友人である。

だから私は、生江君の学問も統轄の手腕も全面的に信頼して一度も損をしたことがないのである。また周囲の人もみな私に同感であると考えている。

（桐朋学園理事長）

目　次

情熱の書……扇谷正造…一
生江君のこと……柴沼　直…三

第一部　社会科はゴモクメシか

1　昭和21年6月24日……一四
石巻中学校に……一四
ある回想……一八
支　え……二三
試行錯誤……二五
戦場への途……二八
戦俘教官……三二

2 塗りつぶされた教科書……三六
一つの勧告……三六
混迷……三九
発足……四三
3 社会科の定着……五五
桐朋学園へ……五五
街頭学習……五九
コア・カリキュラム……六三
系統学習……六八
4 曲がり角にきた社会科……七八
内容的に……七八
教師の力倆……八二
教科書について……八六

学習の形態……八九
5 私は提案する……九四
——社会科新発足のために——
社会科は不定冠詞か……九四
押しつけであってはならない……九七
社会科的な見方……一〇〇
社会科教師のあり方……一〇三
全校教師が社会科教師……一〇四

第二部　日々これ社会科

三月……一〇八
スプリング・キャンプ……一〇八
四月……一二五
大和・京洛の旅……一二五

スパルタ教育……一二〇
土器と古墳は語る（歴史教育レポート　1）……一二一

五月……一二七

娘の結婚……一二七
一年の計……一二九
学級日誌から……一三一
律令国家の誕生（歴史教育レポート　2）……一三四

六月……一四三

みちのくの旅……一四三
ことばと催眠……一五〇
質問一束（歴史教育レポート　3）……一五一
ビートルズ旋風……一五五

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

七月……一五八
仏教教材（歴史教育レポート　4）……一五八
江戸英雄さんと小沢征爾君……一六一
八月……一六九
ソウルの夏……一六九
熱血甲子園……一七五
九月……一七七
「アンナ・カレーニナ」の切符……一七七
過去への目・未来への目
（歴史教育レポート　5）……一七九
けんか　えれじい……一八四
十月……一八六
下剋上について（歴史教育レポート　6）……一八六

母親の歴史教室……一八九
「太閤記」の効用（歴史教育レポート　7）……一九二
十一月……一九六
桐朋文化祭……一九六
宇宙と歴史……一九九
江戸時代とは（歴史教育レポート　8）……二〇〇
十二月……二〇七
ほんとうの若さ……二〇七
近・現代史（昭和史）のとらえ方
（歴史教育レポート　9）……二一〇
第三部　おりにふれて
拝啓ＰＴＡ会員どの……二三四

世界教育者会議から……二四〇
私と日の丸……二四七
パーソナル・エデュケーター……二五五
——「わが国の教育水準」を読んで——
社会科教科書批判……二六一
——小学校六年を例に——
おこづかい・ワッペン・漫画論……二六七
——おかあさんとの対話から——
在外子弟教育の問題点……二七八
あとがき……二八八

第一部 社会科はゴモクメシか

1　昭和21年6月24日

※石巻中学校に

朝の太陽は、もうギラギラとした日ざしをなげかけているのに、車中はうす暗く、いいようのない臭気が鼻をつく。

妻子の疎開先である、宮城県古川市に一夜をあかした私は、勤務先でもあり、母校でもあった石巻中学校に、復員挨拶のため、石巻線にのりこんだ。

昭和二十一年六月二十四日。

車といっても、有蓋貨物車の中ほどに、一本のサンをうちこんだだけのものである。

魚を運ぶヤミ屋のかつぎ箱からは、どす黒い汁がたえずしたたり落ち、停車するごとに、ドカンという衝動が、満員に近い乗客を、そのつど将棋だおしにする。たったひとり背広姿の私は、文字通りの〝エトランゼ〟であり、周囲からは、なにか異様な目がむけられる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo